



第348回ITUクラブ例会「NGNに向けた動きと国際標準化活動への期待」



日本電気株式会社 代表取締役執行役員社長 **矢野 薫** かのる

はじめに

「NGNに向けた動きと国際標準化活動への期待」という壮大な演題ですが、よもやま話から始めさせていただきたいと思います。

最近の話題といえばやはりドイツで開催中のワールドカップではないでしょうか。今ごろはベスト16に勝ち進んでいるはずだった日本ですが、残念ながら予選で敗退してしまいました。ワールドカップの報道の中で、興味深い話がありました。ドイツは第2次世界大戦以降、みんなで国旗を振りながら国歌を歌い、ドイツだ、ドイツだと鼓舞することをせずに、控え目にしていなくてはと習慣付けられていると言うのです。ところがワールドカップの時だけは、堂々とナショナリズムを表に出して応援できるので、大いにそれまでのストレスを発散する場になっているというのです。

ドイツと比べると意識が少し違うかもしれませんが、日本にも同じような側面があるのではないのでしょうか。私の息子などはサッカーファンで、テレビを見ながら、国歌斉唱の時は胸に手をあてて大きい声で歌っていますが、その光景を見ていると、ああ、時代が変わったなとつくづく感じる次第です。

国益がぶつかり合う国際通信市場を生きるために

ITUは国連の専門機関の一つです。国連というのは、世界の平和と発展を維持・促進するための機構として作られたものです。その一つの機関ですから、当然、ITUで使われる言語というのは国連に倣っているわけで、戦勝国の言語が公用語ということになっています。30年近く前、当時は電信電話諮問委員会（CCITT）でしたが、私がいくつかの研究会合（SG）に出席した時もそうでした。そういう事情を知っておりましたから、技術力だけではなく、政治的な環境も必要だということをつくづく実感したわけです。

国連というのは当然、国益のぶつかり合う場です。ITUはそれに比べると技術者としての発想がまずあり、その発想の中から色々な技術が生み出され、結果として標準化につながっていくわけですが、最終的には、技術者は各国の国益を主

張している側面が間違いなくあります。日本人はその辺りの国益とか政治力という点になるとあまり力が発揮できなくなります。

一方、韓国、中国は最近ITUの会議でも、まさに国益を主張しているかのようです。ワールドカップから話が標準化に移りましたが、日本も国益ということをもっと考えるべきではないでしょうか。

中国の第三世代携帯電話規格についても、TD-SCDMAから認可しており、国際競争力ということを見視野に入れた国の施策として通信事業を考えています。もちろん日本はいろいろな分野でもっと底力がありますから、オープンなマーケットにすることによって、かえって発展するという要素も大いにあります。同時に、国際的な競争市場の中で、どのようにして日本が繁栄していくのか、本気で考える時代に入ってきたのではないかと考えております。

通信先進国・日本を揺るがす欧米の政治力

そうは言うけれど、という事例もあります。今日の新聞に鉄鋼メーカーの世界第1位と第2位が合併するという記事がありました。通信の世界でも、アルカテルとルーセントが合併します。

国単位ではなく、企業が、マルチナショナルになっていくという印象が一般にあると思いますが、少なくとも私には、アルカテル・ルーセントは、やはりフランスのアルカテルがアメリカのルーセントを吸収するという構図であり、アルカテルがアメリカのマーケットを手中に収めるということだと思います。

このようなメガマージャーが起きる時代に、日本はどうしたらよいでしょう。先ほど申し上げた国際競争力、標準化活動の中にも、そういう発想は必要だと思います。

日本の技術は進んでおり、その市場も先行していますから、マーケットの要請にしたがってどんどん新しい技術を投入しています。それに対し欧米は、国益としか言いようのないような、新たな提案を出してきます。もちろん後発ですから、多くを学んだ挙げ句もっともらしいことを言うわけです。

そんな中、最近良い話がありました。ブラジルが自国の地



上デジタル放送に日本方式の採用を決定しました。ブラジルが採用を決めたということは、うれしい話です。やはり良いものは良いのだと日本人は言いたくなりますが、皆様のようにこの業界で仕事をなさってこられた方々は、良いものが通るだけの世界ではないということをかみしめておられることと思います。昔のアナログハイビジョン方式の時にはずいぶん煮え湯を飲まされたような気がします。

決して日本の方式だけが良いと言うつもりはありませんが、是非技術の良し悪しを公平に見ていただきたいと思っております。

次世代ネットワークが支える社会とは

御案内のとおり、The Internetというものが大流行しました。一部の大学の先生や国会議員の中には、もうThe Internetだけあれば他のものは要らない、とおっしゃる方もいらっしゃいますが、The Internetというのは、長年にわたり国民の財産として築かれてきた電話網インフラの上に育った宿り木です。電話網が死んでしまえば一緒に死ぬ運命にあるにもかかわらず、それがなくてもいいようなことを言うのはまったくの誤解だと私は思っております。一方、いま存在している電話網はそろそろ寿命を迎えつつあり、これを次世代のネットワークに作り直していかなければいけない時代になったという、歴史的要請があります。

また、今のインターネット網では、セキュリティーが保証されていません。極端な言い方をすると、あらゆる犯罪、サイバークライムの温床になっているという側面もあり、光と影が存在しています。

インターネットプロトコル (IP) というのは非常に大きな成功を収めました。ですからIPは、これからも使われていかなければならない技術だと思えます。加えて、やはり安心・安全なネットワーク作りがどうしても必要になります。国のインフラとして、安心・安全なネットワークがあって初めてユビキタス時代が到来し、ITの新しい戦略作りのベースとなるのではないのでしょうか。

この次世代のネットワークを、どのように作っていくか。業界だけではなくてユーザーの方や政府の方々と、関係する規制の観点からも議論し、良いものを作っていくことが、国家百年の計に資するものだと思っております。

私ももう年寄りの仲間ですが、お年寄りでも安心して使えるネットワーク、あるいはその先のサービスをどのように提供

していくのか。あるいはお子さんに対しても、ネットワークが必須のものになって来ますし、学校にもどんどん入っていかねばいけません。そういうネットワーク時代をどのようにして構築していくのかということの本気で考える必要があります。つまりネットワークの上に、ユビキタス社会をどう作っていくかという議論です。長らく通信に携わってきた我々も、ネットワークというのはあくまでもインフラですから、その上にどういう社会を作りたいのかということを考えていかなければならなくなってきたと、つくづく思います。その場合、やはりITというものがネットワークの上でどのように使われ、活かされて、企業のユーザーあるいは個人のユーザーにどんな利便性をもたらしているかが重要な課題ですし、そこに安心・安全というキーワードをどのように入れていくかが最大の課題だと思います。

国際標準化活動における日本のプレゼンス向上を

ITUの場合でも、この3年ぐらいNGNについて大変深く議論されてきておりますが、新しいサービス概念とか、その上にどういう社会を作ろうとしているのかというような議論にまでは至っておりません。今後は純技術論に加え、ネットワークの上に構築されるサービスや社会の在り方まで含めて議論した上で、標準化活動が進んでいくことを期待しております。

また冒頭の話ではありませんが、ITUの場合も、国家と国家のぶつかり合いの中での作業ですから、ITUに参加しているメンバーだけでなく、日本にいるみんなの後押しして、本当に将来の世界のために良いものを作っていたらと思います。

今度内海さんが、事務総局長の任期2期を終えて退任されます。是非井上さんに標準化局長になっていただき、日本のプレゼンスをもっと高めていくということも必要ではないでしょうか。ここにお集まりの方を始め日本全体で後押しして、是非当選されるように頑張りたいと思っております。

大変ざっぱな話になりましたが、ITUの中心となる多くの関係者がここにお集まりいただいていると思えます。ITUの輪をもっと広げ、日本の将来、世界の将来のためにご尽力いただけたら幸いです。どうぞよろしく申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

(6月26日 第348回ITUクラブ例会より)